

短歌に親しもう

□年 □組 □番 名前

□

◇ ①から③の短歌について、問題に答えましょう。

① 田子の浦にうちいでてみれば白たえの富士の高嶺に雪はふ

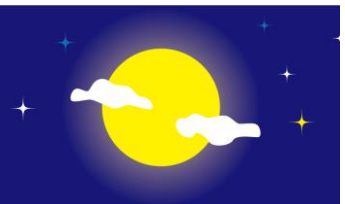
りつつ

やまへの
山部 赤人



田子の浦のはまべを歩いてきて、けしきがよく見えるところに来てみたら、真っ白な富士山の高いところに、雪がふり続いていた。

② 天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも



あべのなかまろ
阿倍仲麻呂

大空をあおいではるか遠くの空を見ると、月が出ています。あの月は、ふるさとの春日にある三笠山に出ている月と同じなのだろうなあ。

③ 向日葵は金の油を身にあびてゆらりと高し日のちひささよ



ゆうぐれ
前田夕暮

ひまわりは金の油をあびたようにかがやいてゆらりと高く立っている。後ろに見える太陽が小さく見えるほどだ。

(一) リズムよく読めるように、②と③にも①のように四カ所に区切る線を書きこみ、音読しましょう。

(二) それぞれの歌をよんだ時の気持ち^もを考え、番号^{ばんごう}を書き入れましょう。

番号			
短歌を作ったときの気持ち・思い	植物 ^{しよくぶつ} のたくましさや力強さにおどろく気持ち。	ふるさとをなつかしく思い出す気持ち。	目の前に見えるけしきの大きさ、美 ^{うつく} しさに感動 ^{かんどう} する気持ち。

短歌に親しもう（答え）

（一）リズムよく読めるように、②と③にも①のように四力所に区切る線を書きこみ、音読しましょう。

② あま 天の原 ふりさけ 見れば 春日 なる 三笠 の山に いで し月かも

③ ひまわり 向日葵は 金の油 を身にあびて ゆらり と高し 日 のちひささよ

（二）それぞれの歌をよんだ時の気持ちを考え、番号を書き入れましょう。

番号	
③	<small>しよくぶつ</small> 植物のたくましさや力強さにおどろく気持ち。
②	ふるさとをなつかしく思い出す気持ち。
①	目の前に見えるけしきの大きさ、美しさに感動する気持ち。